

## 宇治市中学校給食検討委員会会議録（第7回 概要）

第7回			
出席者	委員	坂本 裕子（京都華頂大学 教授） 野田 遊（同志社大学 教授） 藤井 宣夫（北小倉小学校 校長） 岩崎 正樹（西宇治中学校 校長） 丹羽 寛美（大久保小学校育友会 会長） 中村 彩子（南宇治中学校育友会 会長） 高瀬 利奈（西大久保小学校 栄養教諭） 西本 真里（槇島小学校 栄養教諭）	日 時
			2019年5月29日(水) 14:00～15:30
	事務局	宇治市教育委員会 伊賀部長、上道副部長、三村課長、宮山係長、 大西主任、加藤主事 株式会社社長 川田、小谷	場 所
			宇治市生涯学習 センター2階 一般研修室
欠席者	長谷川 良（木幡中学校 教諭）		
1.各方式のメリット・デメリットについて			
委 員	：親子方式の小学校から中学校というのは、進学でいうと2校か3校の小学校が集まって中学校に行くという形になりますが、どこかの小学校に中学校分を委託するようなイメージでしょうか。		
事 務 局	：その形も含めて様々なパターンが考えられると思っています。どこかの小学校からどこかの中学校へ1対1で送る場合、あるいは1つの小学校から2つの中学校に配送する場合、おっしゃったように2つ以上の小学校から1つの中学校にということも考えられます。それらを含めて小学校から中学校への親子方式という形でまとめて整理させていただいています。		
坂本委員長	：中学校から中学校も親子方式と理解してよろしいでしょうか。		
事 務 局	：親子方式の中で、小学校から中学校の場合と中学校から中学校の場合と両方をお示ししています。		
委 員	：中学校から中学校というのは、敷地に余裕があるようなところに、2校、3校分のセンター方式みたいな形で作って、それを分けていくような形になるのですか。		
事 務 局	：その認識で合っています。		
坂本委員長	：3つの方式で大きく違うのは、衛生管理の一元化かどうかということもありますし、配食のルートの時間的な問題も大きいと思います。1から8までの項目に代表されて、大きな違いがあるとは思いますが、学校運営上で、様々な方式によってこの問題以外にも困ることはあるのでしょうか。中学校が一番大きな影響を受けることになるので、今後変化が激しいところだと思います。		
委 員	：図面上どこに立地できるかを見ていくと、どこにも立地できないという実情がありました。教育環境への影響からいくと、今中学校に通わせている親御さんや中学生は、すぐ食べられるという状況ではなく、基本設計から工事まで時間がかかるうえ、一斉にできないので、合意形成のことを考えてもセンター以外は合意形成しにくい。今のお子さんが食べるということを考えるのか、中長期的な取り組みなのかという話になるので、そういうことからしても教育環境への影響というのはあるのではという気がします。		
委 員	：特に中学校は、通常の授業の中ではそこまで影響は無いかもしれないが、例えば放課後の部活動などで、本当に狭い敷地に大変多くの人数がひしめき合って活動するような状況で、グラウンドや中庭の一部を制限されると、子供たちの精神的な部分を含めて、かなり負担は大きくなるかなと思います。		
坂本委員長	：アレルギー対応については、今回それぞれの方式でアレルギー対応のことを書いていただいておりますが、宇治市の学校給食の方針として細かいアレルギー対応は今のところしませんということで、そのほうがどの方式にしても一定の公平な対応ができてよいということでもよろしいでしょうか。		

委 員	今の小学校だと自校給食なのでマニュアルも出来ているので、それが中学校になったときにも、自校方式であれば同じ内容で持ち上げられるのかなと思いますが、これが親子やセンターになった場合に小学校と同じ対応ができるかどうか。余り細か過ぎることはやめるという方向になっていますが、ある程度細やかな対応はしています。
坂本委員長	現場で対応可能なことはされているということでもよろしいでしょうか。
委 員	そうです。
坂本委員長	小学校よりは中学校のほうがアレルギーに対応しないといけない生徒さんは少なくなっている傾向にはあります。
事務局	減る傾向にはあると考えます。
坂本委員長	自分で判断できる生徒さんも増えてきて、自分のことがわかって対応できる。小さい子供ではないのでという考えでもよろしいでしょうか。
委 員	子供任せにできないところがあるので、結局提供するときには提供側の責任というのがあると思います。
坂本委員長	アンケートにありましたが、中学校給食の要望は親御さんのほうが多くて、子供さんはどちらでもよいという回答も多かった。そういうところから考えると、現状作ってもらって食べている中学生にとっては、中学校の給食をすごく待ち望んで、少々の不便は問題ないという感じではなくて、やはり教育環境はちゃんと保障した上での食の提供が望ましいと思います。
委 員	子供たちにとっては、毎日お弁当を持たせて貰う事はありがたいが、時々パンを食べることがすごく魅力的な部分があり、そのニーズはあります。親御さんの負担を考えていくという部分では、特に部活動で朝練習があるようなクラブもありますので、そして大体7時半から朝練習が始まります。親御さんは5時台には起きて作る。そういった負担も考えなければならぬと思います。
坂本委員長	親子給食になったときに、子が小学生になる場合は現状小学校も改築というか、給食室を新しくしていく必要があると思いますが、そうすると小学校も教育上影響は受けるという理解でもよろしいでしょうか。
事務局	小学校の現存の給食室を、調理しながら、例えば夏休み中で改修して、中学校にも運べるような環境を作るには夏休みの期間だけではしっかりと工期を取れないので、現状の施設を改修して使うのは現実的に困難と思っています。 これまでの委員会の中でもご議論いただいたとおり、小学校は老朽化の問題を別途抱えているのが実情ですので、もし小学校から中学校への親子方式をとるようなら、小学校の敷地内の別の場所に新たに給食調理ができる環境を構築して、小学校は自校の中で配膳して、中学校へ運び出すということが必要になってくるとは思っております。
委 員	毎年、給食室は不具合が起こります。規模も、現在子供たちと職員が食べられる食数いっぱいに近い状況で、その中で中学校となると、また施設的に難しくなる。だから、今おっしゃっていた施設の古さと広さを考えると、親子方式はかなり厳しいものがあるなということと、冷静に先ほどの資料を見ても、やはりお金が要りますよね。構想がよくてもお金がなかったらできませんので、お金の面でもかなり厳しいところがあるのではないかと聞いていました。それと、伊丹市がすごくいい印象があって、宇治田原もよかったです。伊丹市は衛生管理もずば抜けていたと思いますし、搬送においても特に支障がなかったということがあるので、お金のことを言うと申しわけないですが、きれいにはまるかなと。全体を見るとそんな形で進めたほうがいいと思っています。ただ、場所が難しいというのは思っています。
委 員	親子方式も、中学校の給食を作るために小学校の敷地を削ってやるというのは、小学校にとってはメリットがないというか、逆にデメリットのほうが大きいような気がしますし、中学校に1つ1つ自校方式の施設を作るとして、様々な教育環境に影響や制限が出てくる部分がありますので、私も、伊丹市の事例も少し出してもらって、総合的にメリット・デメリットを考えてみると一番いいとは思っています。
委 員	現実問題、親子方式も厳しいところがある。例えば、中学校に給食室を作ったとして、一気に全部ができるわけではないので、うちは学校にできているのに食べられないという子供たちも出てくるのかなと。結局子供が3年間食べられなかったということがあると、かわいそうなところしか見られない。あとは、給食センター方式にしたとして、ど

	の場所を作るかも関わってくるし、1つの施設になるのか、川があるのでどうしても川を渡るときに混んだりすると、川の東と西で作ったほうがいいのか。あと、どれぐらいのスパンで最終考えるのがベストなのかなど。保護者の目線としては早く給食になればとてうれしいのですが、理想と現実はなかなか難しいところがありますね。
委員	：親子方式で、工事が始まってとなると、今中学3年生の生徒は、絶対食べられない。部活も制限されるし、工事をするとしても、多分人数が多いところから優先されると思う。給食を始めるとしても一斉じゃないので、地域によってあそこはできているのに何で、という感じになると思うと、センター方式で一斉に始められるほうが親としては不満がなく、ずっと受け入れられる感じはします。
委員	：ランニングコストで、委託と直営で全部の値段が違うのですが、これは主に何費の差でこのような差があるのですか。
事務局	：委託と直営というのは、主に委託は業者見積もりによるというところと、直営は、あくまでも現在の理論値ですけれども、小学校の配置人数によります。その委託と直営の価格差はあります。各方式による金額の差異につきましては、大きくは配送、例えば自校調理でいきますと、配送の経費は要りません。ただ、個別に1つ1つの学校で光熱水費などが別途かかってきます。センター方式でいきますと、1カ所に配送経費等もろもろ載ってきます。親子方式でいくと、親のある学校に光熱水費等の負担がどんときて、あとは配送がかかりますというような形になっています。この細かい差異は、直近の事例や、各先進地の見積もり状況を聴取しましてお金面にまとめたものとなっています。
委員	：自校方式だと、委託が4.5億円、直営で5.2億円ですが、この差は主に何費が一番大きいですか。
事務局	：委託と直営の差は人件費です。
委員	：人件費でものすごい差があると思ったので、この辺も参考にしながらどの方式がいいかというのを考えてもよいと思います。
坂本委員長	：委託の問題で、宇治市が小学校の給食のときに調理を委託で頼まれていると思いますが、委託先が決まらなかった問題がありました。中学校にしても、自校方式で委託というのは、個別に経費の安いところで採択されていたときには、そういう問題を孕んでいるとか、安さの中にそういうリスクはやはりあるものですか。
事務局	：全校委託しているわけではなく、実際調理している20校のうち14校委託して、6校は直営校という形で職員の手で調理を行っています。ここは議論がわかりやすいように、表記的には全て直営、全て直営とした場合の仮定条件で算出しています。
<b>2. 中学校給食の方向性について</b>	
坂本委員長	：3番の食育の推進のところ、施設や設備の整備を検討するというのはわかりますが、体制の整備を図るとあるのは、具体的にはどのようにイメージしたらよろしいですか。
事務局	：メリット・デメリットシートの中にもありましたが、例えば栄養教諭の配置や、食育をするために必要な体制のことを意図して記述をさせていただいております。
坂本委員長	：様々な方式によって栄養教諭さんの配置が違ってくると思いますが、それは宇治市だけで検討できない、京都府とのこともあると思います。それを要望していくという理解でよろしいですか。
事務局	：今ここに記載しているのはどの方式と限ったものではございません。中学校給食をやっていくに当たって、こういったことに気をつけていきたいと思いますという点を挙げております。実施をどのような形でやるのかは、府の関係など様々な人員配置の考え方があると思いますが、委員会としてやっていくべき内容をここに書かせていただいております。
坂本委員長	：栄養教諭の方の配置を望む、などの文言を入れてもよいのでしょうか。
事務局	：具体性を持たすことは可能だと思います。
坂本委員長	：栄養教諭の先生など配慮ができる方の人員も増やしてほしいという要望を同時に入れておくのがよいと思います。
坂本委員長	：小学校の給食のところでは、栄養教諭だけではなく栄養士も配置されているのでしょうか。
事務局	：小学校は、今府費の栄養教諭と市費の栄養職員といった形で配置をしています。府費も人事異動で栄養職員が来るのか栄養教諭が来るのかわかりませんが、今はわりと栄養教

	<p>論という形で皆資格を取っておられますので、府費の職員についてはその形で府に要望をしています。センターであったら何人という基準が一応ある中で、こういった形の府費の栄養教諭を入れられるのか、栄養教諭とプラス市費の栄養職員も配置できるのかどうかは今後のことなので、検討委員会としては、そういったことも充実するべきだという話は入れていただくとよいかと思えます。</p>
坂本委員長	<p>そこは、小学校と同じレベルか、もしくはそれ以上か、そういう文言を入れてはどうかと思っています。</p>
委員	<p>中学校からすると、体制整備の中身がすごく重要だと思います。人的配置を含めた体制整備という部分をお願いしたい。学校の管理職対応だけではなかなか難しい部分があります。</p>
委員	<p>安全・安心な学校給食の中に、適温提供みたいな文言を入れても良いと考える。ここでは衛生管理を行うとともに、食中毒の徹底した防止だが、やはり冷たいものは冷たく、温かいものは温かく提供したほうがおいしい。安全、安心だけれど、おいしさもやはり必要じゃないかなと思う。</p>
事務局	<p>安全・安心な学校給食というのは、事務局のほうでこれまでご議論いただいた中の、衛生管理とアレルギー対応を1つにまとめたキーワードとして記載しているので、それを組みかえて、適温提供もこっちというのはできる。</p>
委員	<p>アレルギーのことが、(1)安全・安心で2項目に分かれているので、アレルギーはアレルギーのことでまとめて書いたほうがわかりやすい。</p>
坂本委員長	<p>今アレルギーが一番大きな問題になっていると同時に、安全・安心のところでは食中毒の防止があるので、センターであれば、1つではなくて2つ、あるいはレーンが2つになるのかとか、自校方式にしても、ドライ方式とか、とにかく今の新しい設備で安全な提供をして、リスクはできるだけ分散を考えておくほうが良いと思っています。</p>
事務局	<p>安全・安心な学校給食の中で、アレルギー対応が施設のことと体制のことに分けてと、食中毒も少し触れていますが、項目をもし直すということであれば、適温提供も上に入れて、残食だけを残してしまうのか、残食は食育のほうに持って行って、項目を1つ減らすなどの組みかえ方もご意見を頂戴すればと思います。</p>
委員	<p>安全・安心の学校給食の中は、アレルギー対応が主ですが、どのような食材を利用するかも大事だと思います。地産地消などの、そういう安全・安心の部分の項目も1つ加えていただければと思います。</p>
事務局	<p>どちらかというと安全・安心よりも、小学校の中でいうと食育の項目かと思っていますので、そこに反映したらいいかなと思います。</p>
委員	<p>今小学校給食だと、物資の選定でも安心・安全につながるようなものということで、委員会を立ち上げて、気をつけてやっています。宇治市できちんと把握した安心、安全なものが入るといふところも必要と思います。</p>
事務局	<p>全ての方式、全てのパターンで意見書を作るといふのは少し大変な作業になってきますので、方式を絞っていただいて、必要な議論ができるような調整をしたいと思っています。</p>
坂本委員長	<p>最も適した調理方式について、委員会で方向性を出していく必要があると思いますが、修正案を見た上で議論を進めて良いのですか。</p>
事務局	<p>本日、ご意見を頂戴する中で、さらなる議論を深める時間が必要であれば、深めていただいても結構かと思っています。</p>
坂本委員長	<p>委員の皆さん方の中で、それぞれのご意見を述べていただいて、少し議論を深めるために、ご意見を出していただきたいと思いますが、いかがですか。</p>
委員	<p>理想としては、自校方式はすぐご飯が食べられるし、いいと思いますが、現実問題、中学校に施設が作れないという問題もありますので、公平に、早期にできるというセンター方式がいいと私は思います。</p>
委員	<p>教育環境への影響をできるだけ少なく実施していく方法がありがたいと思います。公正公平という部分も考えますと、自校方式よりも今のところセンター方式のほうが現場も混乱せずに円滑に進められるような感じは受けました。</p>
委員	<p>自校方式が理想は理想ですけども、現実問題を考えると、センター方式が実現するのに一番近いのかなというのがあります。</p>

委員	給食を提供するに当たってリスクが少ないのは自校方式で、何かあった時や、学校行事、アレルギーにもすぐ対応できるので、提供する側として一番リスクが少ない自校方式のほうが望ましいと思います。ただ、センターなら、センターの用地確保はもうされているのか、これからなのか、そこにもよると思います。
委員	自校のほうが食育的にも食べている子供たちを直接見て、会話するという細かい部分が日々できると思う。あと、予算、教育活動が制限されるなどの様々な面を考えて、センターに決定した際に場所が無かったということになると、どうなのかと少し思いました。
事務局	例えば自校であっても、用地がないとなれば、学校環境に影響がないように、隣接地を買えば、既存の活動の場所は制限せずにできるという話も出てきますし、どの方式かさえ決めていただいたら、次はその中での課題がありますので、それは頑張ってやっていく必要があるというのは、決まった後の委員会でも議論は絶対要ると思っています。そのために、メリット・デメリットシートで、既に全部の方式でご意見を頂戴したところだと思っています。
事務局	用地を探して、15年も20年もセンター方式にこだわり永遠に実施しないというのは、少し違う話だということで、どうしても決まらないときは市側の判断で違う方式を検討することも必要ですので、最大限尊重するという表現をしたところです。
委員	最初の保護者のニーズというか、市民のニーズというのはとても重要と思います。ニーズとそれを実現するためのお金、ここだと思っていて、そのニーズの解釈が、どちらかというとプラスアルファで給食を実施するなら賛成というような解釈でいます。要するに、スクラップアンドビルドで、スクラップはしないという前提で多分賛成にしているはず。そのスクラップのところ、今の教育活動や様々なクラブ活動・部活動をやめることになる、それならやめておこうかという感じになる気がしていて、やはりニーズというのは教育環境に結構重要なことかなと1つ思いました。 近い将来かなり人口が減っていく、子供が減っていくことを見据えて考えると、途中で修正できるような感じがいいなと思います。このお金を見る範囲では、一番痛手が少ないほうが良いとすごく思っています。1個1個作ればもちろん良いのですが、それはすごく痛手が大きくなってしまいうのではという危惧、要するにかなりのお金を使うものですから、途中で修正できるような形にするために、私はかえってセンターが良いのではと思いました。
坂本委員長	公平性など言われる今の保護者が望んでいる形というのなら、センターがよいかと思いますが、安全とかリスクの分散を考えると、センターも、1つではなく、将来を見越して、機能としては分散し、将来そこだけ高齢者用にする、また違う機能としての施設にするなど、将来性を持たせた考え方というのが必要じゃないかと思っています。
坂本委員長	それでは、これをもちまして、本日の委員会を閉会したいと思います。ありがとうございました。
	以上